

全国をつなぐ

「黄柳野高校PTA」

森 清光

理想の学校を追い求める「黄柳野高校」とは

愛知県の奥三河、鳳来町。大自然に包まれるよう、「かけがえのない人間として、多様な可能性と能力を秘めている若者達が自らを豊かに表現し、創造力を発達させ、自立と社会への貢献観を

もつた民主的な人格を育む学校」「内申点や偏差値など数字のみでは計り知れない多様な能力と可能性を秘めながら、高校を中途退学してしまった。小・中学校は休みがちであった。でも、もう一度やりなおしたい」「学校の理念に賛同し黄柳野高校でやりたい」そんな若者達が全国から集う

特集 〈つなぐ・つながる〉

全寮制、二四時間体制の学校である。

今から約十年前、学校創りが提唱された。特定のスポンサーを持たず、全国数十万人の賛同者の寄付により、幾多の困難を排して一九九五年四月、世界でも始めての「市民立」学校法人・黄柳野学園「黄柳野高等学校」は誕生した。

全国に拡がる黄柳野PTA

黄柳野高校には、全国から生徒が集まっている（九九年五月現在、北は青森県から南は鹿児島県まで三七都府県）。そんな理由から、学校に一同に集まるPTA活動は制約されてくる。そこで、全国を五つの支部に分け、支部の中にブロックを作り、普段の活動を行つている。

おおまかなPTAの方針を掲げると、①より多くの会員が活動に参加する ②保護者の積極的な学校行事への参加 ③公費助成運動をすすめる

④黄柳野高校発展のために協力する ⑤学校を支える力を蓄える、以上五点に絞られよう。つまり子どもを中心に積極的に学校行事を支え、誕生して間もない学校を物心共にサポートできる体制を全国的に組織する活動である。

夜を徹しての交流会

全校的にPTAが学校に集まる行事が昨年の場合五回ほど設定された。・PTA総会・オールナイトウォーキング（豊橋から学校まで約三八キロメートルを子ども達が夜間歩行する）の手伝い・超リフレ（寮、学校の補修清掃）二回・学園祭（PTAは全国の物産展などをを行い、地元の方にも大変喜んで頂いている）・卒業式、である。遠路に関わらずたくさんの保護者が参加する。この機会を利用してスタッフ（黄柳野では生徒を含め教師を先生と呼びます）と呼び、教師と生徒

の上下関係を排している)との交流会を開催した。子どものこと、学校のこと、教育のこと、人生観のことなど話題は様々だがいつも明け方まで続く。地方、地方で考え方特色が有り、いつも「黄柳野の親語録」を作ろうと思うのだが若干飲み物が入るので翌朝には忘れてしまうのが残念である。

鳥の鳴かぬ日はあつても

PTA活動のない日はない

手元に昨年度の行事一覧表がある。PTAが関わった行事が、なんと百七十七日ある。その多くが各地で開催される支部会、ブロック会、学校報告・説明会である。これは実際に開催された日数なので計画段階から入れた延べ日数は優に三六五日を超えるものと思われる。

支部会・ブロック会は、遠くてもいつも何らか

の形で学校に関わることと、スタッフを招いて、学校の情報を伝え意見交換することを目的とするが、各支部で趣向をこらした「親が楽しめる行事」も活発である。

学校報告・説明会は、子どもを黄柳野に入れた人、黄柳野の教育に興味を持つてゐる人、支援して頂いている人、教育関係者などが集まり、黄柳野の現状、黄柳野の理念等を多くの方に知つてもらうために全国で開催されている。できるだけ黄柳野の生徒も同席し、自分たちの生活、黄柳野に行つて思ったことなどを語り出席者の共感を呼んでいる。黄柳野高校の役割を知らせる仕事はPTAの大きな仕事の一つである。

「おらが学校創り」としてのPTA

少子化のあおりで、現在多くの高校の生徒募集は容易でないのが現状である。定員割れをしてい

特集〈つなぐ・つながる〉

る学校も少なくない。学納金、生徒人數割りの助

成金に頼る私学の経営にとって定員割れは死活問題である。黄柳野の場合も例外ではなく前述のとおり全国で黄柳野を紹介するとともに助成金増額の運動に力を注いでいる。愛知は全国一私学助成の多い県ではあるが昨今の情勢から教育予算の減額が懸念されている。他の私学の保護者とも運動し運動を盛り上げるのもPTAの役割である。

黄柳野高校の出発は資金的に裕福なものではなかった。「何とか出発できた」のが実状であろう。設備不足の面が多くある。スタッフの情熱で何とかカバーしてきた感がある。経常費は学納金で補い、設備の拡充は寄付金に頼らざるを得ない。PTAでは「黄柳野高校後援会」拡大を中心に取り組んでいる。年間若干の寄付と通信費を頂いて設備拡充に充てるとともに、年四回発行の学校広報「つげの春秋」等を発送し黄柳野高校を多くの方

に知つてもらつてている。

PTAの中には暇さえあれば学校に行つて花を植えたり、掃除をしたり、色々な手伝いしている人がいる。たぶん他の学校では見られない光景だと思う。「おらが学校」を支える陰の力である。

学校、PTAをサポートする「萌黄会」

黄柳野PTAを語るのにもう一つ紹介したい団体に「萌黄会」がある。PTAの任意のOB会である。あらゆる面で学校、PTAをサポートし、又独自の活動も行つてている。先日も長野、梅池の会員が経営する

ベンションで総会を行つた。黄

柳野高校名譽校長の若林繁太氏を招き座談会的



講演会、懇親会を行つた。懇親会席上、若林さんが「家ではね、家内がうるさくてあまり飲めないんですよ」とビールを空けられる姿に、日本を代表する教育者も私も家へ帰れば同じだなと妙な所で親近感を覚えた。次の日は梅池高原を散策し楽しい会であつた。PTAを支えつつ自分たちも楽しもうという会である。

五十年後の教育を目指す黄柳野丸

理事長の羽仁協氏がよく「私たちは五十年後の教育をしています」と言われる。全国十万人の不登校児、各県一校分程の高校中途退学者が出ている。黄柳野は不登校、中退の専門校ではありません。普通の高校です。でも一つの選択肢として黄柳野を選んだ子達の殆どが卒業していきます。理事長の言葉は、五十年後には不登校も中退も出な

い教育がなされていると言ふことでしょう。学校の言葉を借りれば「癒されて、自由に学べて、学力が身につき、進路が保障される」学校を目指す黄柳野丸に乗つた私たちPTAにも課せられた仕事なのでしょう。

おわりに

PTAは変な団体である。他の団体は何らかの目的のため自分の意志で入るのだが、PTAは子どもが同じ学校に入学しただけの事である。だから緩やかな縛りで緩やかなつながりがコツだらう。「つなぐ・つながる」のテーマです。これを機会につながりが持てる方があつたらと思い電話番号を記します（〇五九四一七八一〇四七二）。

（黄柳野高校PTA前会長・萌黄会現会長）